

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 大変良好な結果であった |
| ②我が国の言語文化に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ③A話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④B書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ⑤C読むこと | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

解答の特徴について

- ・もともと正答率の高かった設問…話し言葉と書き言葉の違いについて。
- ・もともと正答率の低かった設問…文章に対する意見の伝え合いや、文章の良さみつけについて。
- ・もともと無解答率の高かった設問…言葉の理解と伝えたいことの内容を捉えることについて。
- ・もともと無解答率の低かった設問…文章に対する意見の伝え合いや、文章の良さみつけについて。

分析

【良好であった点】

全体的に良好な結果であった。特に、思考力・判断力・表現力等の「C 読むこと」の内容は良好であった。5年時から、「C 読むこと」の教材を中心に、様々な言語活動を経験して表現する力をつけてきた結果だと考える。

【課題となった点】

記述式の問題は、やや苦手な傾向にあった。特に、立場や意図を明確にして、自分の考えをまとめたり、自分の文章のよさを見つけたりする問題の正答率が、他の問題より低かった。今後は自分の主張を明確にさせた表現活動や、児童が作成した文章のよさをお互いに伝える活動などを取り入れて、改善を図りたい。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ①A数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②B図形 | 良好な結果であった |
| ③C変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④Dデータの活用 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

解答の特徴について

- ・もともと正答率の高かった設問…乗法の計算について。
- ・もともと正答率の低かった設問…数量と割合の関係について。
- ・もともと無解答率の高かった設問…百分率・図形を構成する要素に着目したプログラミング内容について。
- ・もともと無解答率の低かった設問…四則計算・数量と割合の関係について。

分析

【良好な点】

全体的に良好な結果となった。昨年度までの5年間、算数を重点的に、授業力向上の研究を進めた結果だと考える。特に、見通しを立て、自力解決する力を研究してきたことが、無解答率の低さなどに影響を与えたと考える。

「B 図形」を問われる問題では、問題は図形に関するプログラムについての内容で、全国と比較しても良好な結果となっている。本学年は、タブレット導入時から、積極的にタブレットを使用しており、タブレット操作に慣れると共に、プログラミング思考を身に付けることができたのではないかと考える。今後もタブレットの活用には積極的に取り組んでいきたい。

【課題】

特に苦手としていたのは、数量と割合の変化である。割合は、概念を捉えることが難しい内容となっているので、生活に即した実体験を交える学習を行うことで、苦手意識を取り除いていきたい。

(領域ごと)

- | | |
|--------|-------------|
| ①エネルギー | 概ね良好な結果であった |
| ②粒子 | 概ね良好な結果であった |
| ③生命 | 概ね良好な結果であった |
| ④地球 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

解答の特徴について

- ・もっとも正答率の高かった設問…問題解決のための筋道の構想と自分の考えを持つことについて。
- ・もっとも正答率の低かった設問…日光の特性について。
- ・もっとも無解答率の高かった設問…実験器具(メスシリンダー)の理解について。
- ・もっとも無解答率の低かった設問…昆虫の特徴・実験器具の使用法・観察と考察について。

分析

【良好な点】

全体的に、概ね良好な結果となった。特に良かった点は、気温の記録の結果から見通しを立てる問題である。これは、普段から実験等を行う前に、必ず結果の予想などを立てているためだと考える。また、気温の変化は生活に即した問題であることから、実体験を伴った学習活動の大切さが読み取れる。

【課題となった点】

知識・理解を問われる問題が苦手な傾向にあった。例えば、「昆虫の体のつくり」や「器具の使用法」など、普段の生活の中では接点が少ない知識であるために、苦手としていたと考える。学習においては、定期的に復習する機会を設けたり、自ら探求心を持ち調べたり、体験したりする活動を増やして、改善を図りたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・ 国語・算数ともに、正答率が全国平均を上回る結果となった。
- ・ 算数では、学力低位層が減少し、中位層、高位層が増えたことから、算数を中心に研究した成果が現れた。
- ・ 国語では、学力中位層が減少し、高位層と低位層が増えた。今年度から始めた国語科の研究で、低位層の底上げを図る。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・ エンパワー層、学力低位層が減り、高位層が増えた。全体的な学力の向上が認められる。
- ・ 特に算数では、学力低位層が大きく減少し、中位層、高位層が増えたことから、学校全体で、毎時間の授業を丁寧に進め、積み上げてきた結果だと考える。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

① 授業力の向上、改善について

- ・ 算数科では、問題解決をするために、様々な方略で自力解決を目指す学習の研究を5年間行った。その結果が一定示されたため、今後もこれまでの研究してきた成果を引き継いでいくようにする。
- ・ 今年度より、研究教科を算数科から国語科へと変更した。今年度は国語に対する児童へのアンケートや普段の授業の様子を積極的に交流するなどして、国語科に対する庄栄小学校の児童の強みや弱みなどを把握することに努めている。その結果から、次年度の研究につなげていきたいと考えている。
- ・ 職員の研修においては、「指導案検討会」を「単元計画検討会」へと変更した。自学年だけでなく、他学年の教材をともに研究することで、単発的な授業力の向上だけでなく、一つの単元全体を通した授業力の向上を狙うことができる。また、児童が楽しく学習に参加できる言語活動の設定の在り方を研究している。
- ・ 朝学習(モジュール学習)や宿題の内容を検討するなど、多角的な学力向上をめざして、職員全体で研鑽を積んでいきたい。

② 主体的に学ぶことができる学習集団の育成。

- ・ 昨年度より、主体的に学ぶ力を育成するために、自主学習を3年生以上で行うようにした。児童の意欲を高めるために、「自学コンクール」を定期的に行っている。「自学コンクール」の題材も、児童が興味関心をもって取り組める内容になるように工夫している。
- ・ 「主体的な対話を引き出す授業づくり」をテーマに、個々の教員が「授業改革」を心掛けて取り組み、子どもの主体性を育むことについても研究していく。

③ 基礎的な学力の育成。

- ・ 上記の取り組みを丁寧にしながら、導入されたタブレットの有効的な活用法などを、積極的に交流し、様々な角度から児童が意欲的に学習に向き合える環境づくりを行うようにしている。